

## ふるこはんフェス ONLINE

主催:高岡市歴史文化推進協議会

共催:高岡市／高岡市教育委員会

協力:浄土真宗本願寺派高岡教区 寺族青年会 鸞翔会／高岡ケーブルネットワーク(株)／

観光ボランティアグループ「比奈の会」

企画運営:ふるこはんフェス運営委員会／(有)エビファニーワークス

司会：鍛冶絵里子 Music：河上朋弘

お問い合わせ 高岡市歴史文化推進協議会事務局

(高岡市教育委員会生涯学習・文化財課内) TEL:0766-20-1453

 **文化庁** 令和2年度文化庁芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

# 勝興寺とふるこはんフェス

—地域と文化財の新たな船出—

2020開催レポート

令和3年春、20年余りにわたる「平成の大修理」を終え、いよいよその全貌が明らかとなる重要文化財「勝興寺」。かつて北前船の寄港地としても栄えた富山県高岡市伏木に建つ荘厳な寺院は、古国府という地名から親しみを込めて「ふるこはん」と呼ばれています。往時の姿によみがえった勝興寺に、そして伏木へと多くの人に訪れてほしい、そんな思いから生まれたのが「ふるこはんフェス」です。その集大成として第3回を迎えるはずだった今回、残念にも新型コロナウイルス感染拡大という危機に見舞われました。

この冊子では、コロナ禍における新しい文化財活用イベントとして実現した「ふるこはんフェスONLINE」の開催経緯と当日の様子をレポートします。また、この事業のきっかけとなった「勝興寺とまちづくり座談会」(平成30年3月)以降、企画・運営に携わってくださった方々にこれまでを振り返っていただき、勝興寺と地域のこれからについて考えてみたいと思います。

※過去の経緯や開催レポートについてお知りになりたい方は、巻末のお問い合わせ先までご連絡ください。

## 雲龍山 勝興寺

高岡市の海沿いに位置するまち伏木古国府(ふしきふるこくふ)に建つ、浄土真宗本願寺派の勝興寺(しょうこうじ)。真宗王国・越中における代表的な寺院であり、本願寺を支える連枝寺院の一つとして重要なはたらきをしてきました。

〒933-0112 高岡市伏木古国府 17 番 1 号



## 伏木

勝興寺が建つ高岡市伏木は、奈良時代に越中国国府が置かれ、近世以降は北前船による交易により栄えたみなと町です。現在は伏木外港の整備が進み、富山県における貿易拠点として期待が高まっています。



ふるこはんフェス ONLINE にむけた

## 準備委員会



### 5月29日（金）

前回の良かった点や反省点を振り返り、来場者アンケートも参考にしながら本年度の開催方法やプログラムについて話し合いました。特に、新型コロナウイルス感染拡大の第2波がくる可能性を踏まえ、早めにオンライン配信ができるプログラムに絞る方向性で一致しました。



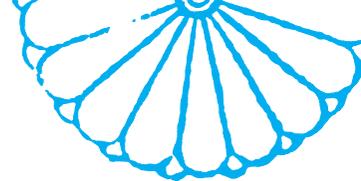
### 6月30日（火）、7月27日（月）

毎回好評の「音楽法要」「見学ツアー」を中心に、高岡ケーブルネットワークの協力でコミュニティチャンネルとインターネットによる中継放送・配信での開催が決定。勝興寺全面公開を見据え、文化財や仏教文化、地域の魅力を伝えるプログラムになるようみんなでアイデアを出し合いました。



### 9月17日（木）

誰も経験がないケーブルテレビの中継放送とインターネット配信でしたが、視聴いただくみなさんにより良いコンテンツをお届けできるよう、音楽法要のリハーサルとともに技術的なチェック、ロケハンを行い、万全の体制での開催に向け準備を進めました。



よみがえる  
勝興寺！

平成の  
大修理で

FURUKOHAN

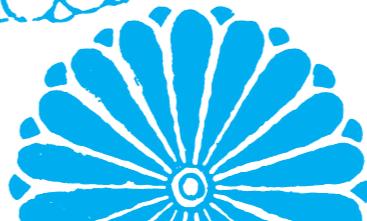
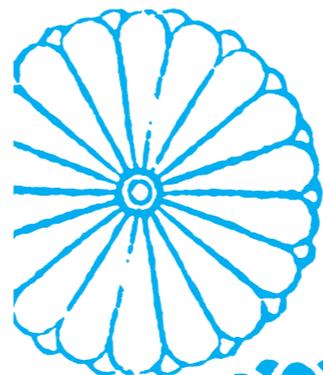
ふるこはんフェス  
ONLINE

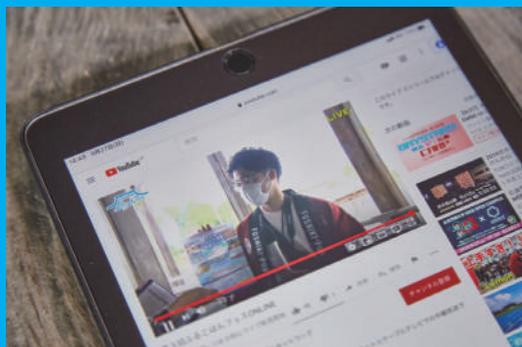
第3回！

ライブ配信イベント！/  
伏木・雲龍山 勝興寺

2020.9.27 Sun.

13:00 - 18:00





### 主なプログラムの配信・放送スケジュール

- 13:00 YouTubeチャンネル 配信開始
- 13:30 勝興寺見学ツアー（1）
- 15:30 ミニ法話
- 15:45 法要解説／コミュニティチャンネル放送開始
- 16:00 音楽法要
- 17:00 勝興寺見学ツアー（2）
- 18:00 配信・放送終了

高岡ケーブルネットワークのYouTubeチャンネルとコミュニティチャンネル(チャンネル9)で放送しました。アーカイブ動画もご覧いただけます。



## 音楽法要

### 『宗祖讃仰作法』

富山県西部地区の本願寺派若手僧侶の声明と雅楽、シンセサイザー演奏による法要。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、人数限定・事前予約制にてご参拝くださる方を募集し開催しました。僧侶のみなさんが制作した映像を交えての法要の解説や、袈裟(けさ)・衣など衣体(えたい)の紹介も行われました。



## ミニ法話

仏の徳を味わい、喜びをともに分かち合うための法話。若手僧侶による親しみやすいミニ法話が行われました。



## 僧侶DJ

オンラインでご参加の方に、自宅でも勝興寺の雰囲気味わっていただくため、DJ Kこと河上朋弘さん(琳空山 慶集寺住職)が特別にセレクトした音楽を、オンラインストリーミングサービスで配信しました。



## 勝興寺見学ツアー

国の重要文化財に指定されている勝興寺の建造物を、観光ボランティアガイド「比奈の会」の解説付きで案内するオンラインツアーを開催しました。



### 高岡遠近 勝興寺 ～蘇った大伽藍～

通常は一望することが難しいほど広大な勝興寺の境内地と大伽藍を、ドローンの空撮によるダイナミックな映像で配信しました。



## 勝興寺の 平成の大修理

勝興寺は本堂をはじめ12棟もの建造物が国の重要文化財に指定されているなど、多くの文化財を有することでも知られています。平成10年からは「平成の大修理」と称した大規模な保存修理事業が行われ、令和3年春、いよいよ全面公開となります。



今年3回目を迎えたふるこはんフェスは、平成の大修理完了に向け、勝興寺を地域のためにどう活かしていくかという地域の人たちの話し合いの中から生まれました。これまでふるこはんフェスに携わってくださったみなさんにお話を伺いました。

2018

3月10日(土) 勝興寺とまちづくり座談会の開催

6月24日(日) 勝興寺を地域のために活かすワークショップの開催

7~9月 ふるこはんフェス開催に向けた準備委員会の開催

10月6日(土) 第1回 ふるこはんフェスの開催

2019

4~6月 ふるこはんフェス開催に向けた準備委員会の開催

9月29日(日) 第2回 ふるこはんフェスの開催

2020

7~9月 ふるこはんフェス開催に向けた準備委員会の開催

9月27日(日) ふるこはんフェスONLINEの開催

これまでの歩み

牧野友香さん(ふしき坂ノ上ヴィレツヂ代表)



第1回・第2回のマーケットと坊主カフェのフードを担当し、「ブッダボウル」は毎回100食以上出る人気メニューになりました。ふるこはんフェスは、いろんな人が各自得意なことを担当して作り上げるところが面白く、良い経験に。出会った若手僧侶の方々とは今も仲良しです。地元の人には自分のケータリングの仕事、同業仲間にはマーケット出店を通じて勝興寺のことを知ってもらえたことが嬉しかったです。

金子榮子さん(観光ボランティアガイドグループ「比奈の会」代表)



勝興寺には幼い時からよく祖母に連れられてきました。戦争を経験した世代にとって仏教はより身近なものだったので。私はガイドになって13年。最近になってようやく「お寺は地域にとって欠かせないものなんだ」と感じるように。それは、歴史と文化を作ってきたお寺だからこそこんな機会に立ち会えるのだな、と思ったからです。ふるこはんフェスで初めて勝興寺を訪れた方も多く、ガイドできたことに感謝しています。

公文名 智さん(浄土真宗本願寺派高岡教区 寺族青年会鷺翔会)



想像以上の来場者数もさることながら、特に「音楽法要」への反響に驚きました。多くの僧侶と参加者の方々で満堂となった法要では、私たち自身も勝興寺のもつ"場の力"を感じる事ができ、込み上げるものがありました。また「坊主カフェ」は、ふだん法事や葬儀での関わりが中心となってしまった私達にとって、生き生きとした笑顔のみなさんとお話できる貴重な機会となり、このように気軽に話を聴ける場の大切さにも気づかされました。

玉橋伶奈さん(元 富山大学芸術文化学部生)



2018年のワークショップから参加しましたが、思い返せば地元の方の「法要を聞きたい」などの意見が実現できていたことに感激しています。「音楽法要」は初めてののに不思議と心が安らぎ、一体感に包まれた会場が印象に残っています。大学で建築デザインを専攻していたので、文化財としての勝興寺やお寺にこめられた思いを知ることも大切な学びとなりました。地域の多様な方々と一緒に何かを作り上げた経験はかけがえのないものです。

みなさんのふるこはんフェス

# 勝興寺音声ガイド

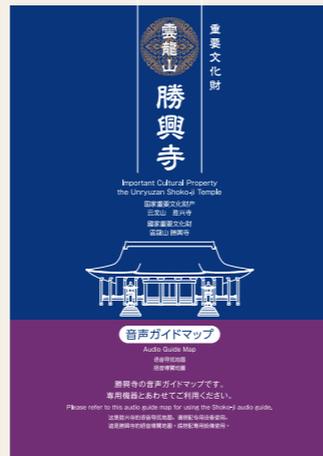
勝興寺では、そのなりたちや建造物の詳細な説明などを集めた「勝興寺音声ガイド」を提供しています。その中から、民衆に親しまれてきた勝興寺ならではのエピソードを一部、ご紹介いたします。

## 経堂の造営名札 きょうどうのぞうえいめいさつ

勝興寺の経堂(仏教の經典をおさめておく建物)には、建物の建立年月日や造営に携わった人々の名前が記された「造営名札」が残っています。これは建物の造営基盤を知る上で重要な資料で、勝興寺では京都から移築をされた唐門を除いて、この経堂の札が唯一残っています。その札には、なんと47もの町人の名前が記されており、町民が主となって勝興寺の経堂を造営したことがわかります。これは、門徒がお寺を支える浄土真宗ならではの姿といえます。

## 勝興寺と加賀藩前田家 しょうこうじとかがはんまえだけ

勝興寺にはこれまで2回「禁制」(きんぜい：掟や禁令を告知するための文書)が出されています。一度目は越中出陣をはかる羽柴秀吉より。勝興寺を保護する一方、越中国の領主であった佐々軍への参陣を禁ずるものでした。二度目は前田利勝(のちの利勝)より。これも治安維持の名目としつつ一揆などの乱を禁ずる意味を併せ持っていました。秀吉・利勝ともに、本願寺と繋がりが深い上に多くの民衆の力が集まる勝興寺を重要視していたことがわかります。



勝興寺音声ガイド(1台500円)  
対応言語：日本語 / 英語 / 中国語  
勝興寺受付にて、貸出しています。

全面公開を直前に控えた勝興寺のひと足早いお披露目の機会として盛大に開催するはずだった今回の「ふるこはんフェス」は、前述のとおり映像でお届けすることに。晴れわたる伏木の空とは裏腹に、ひと気の少ない勝興寺はどこか寂しげに映っています。どんなに立派な建物や文化財も、そこに関わる人がいない限り生き生きとせず、不思議と傷むのも早くなります。長い歴史のなかで親しまれてきた勝興寺は、みなと町で外とつながる伏木という土地柄と、民衆により支えられてきた浄土真宗の仏教文化が、オープンで多くの人を惹き寄せる力を持ち、多様な人々の交流を生んできたからこそ地域の財(たから)になり得たのではないのでしょうか。外に開けたオープンな場として地域と歩みをともにする「古くて新しい文化財」としての歴史が、今まさに作られているのであり、その当事者は他の誰でもない、私たち一人ひとりなのです。

最後に、ふるこはんフェス開催のきっかけとなった「勝興寺とまちづくり座談会」やワークショップに参加してくださった地域内外の方々、来場者のみなさんや出店者の方々、そして企画や運営に時間と労力を惜しまず協力してくださった運営委員、大学生のみなさん、本当にありがとうございました。